

課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

＜生活科学部管理栄養学科＞（認定課程：中一種免（家庭））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	【1】教育の基礎的理解に関する科目を通して、教員という仕事について生徒の立場ではなく教師の立場から理解する姿勢をつかむ。【2】家庭科の基礎となる、生活科学および家政学の概念、生活を科学することの概念や理念を理解する。【3】教員免許状取得に必要な科目の、1 年次配当の科目を確実に履修・修得する。【4】管理栄養士に関する専門科目が多いと思われるが、食生活だけでなく、他領域に関する科目も不得意分野を作らないよう、合格ラインクリアを目指すのではなく、領域の理解のために全内容の理解と修得を目指す。
	後期	【1】ほぼ前期に同じ。前期の【1】～【4】を継続のこと。【2】教育の基礎的理解に関する科目等は上級学年になると同時間に他の教職科目や専門必修科目が入っていることが多いので、1 年次に確実に修得する。【3】次年度より副免教科履修を考えている者は、1 年後期で受講の意志を固める。
2 年次	前期	【1】家庭科という教科についての理解を深め、さらに各指導法の授業にて、家庭科や道徳、特別活動などの学習指導案を作成できるようになる。【2】2 年次配当の科目を確実に修得する。【3】1 年次で学習した教職関連知識および専門知識を踏まえ、家庭科の教員として、家庭科で教える内容を意識して考えられるようになる。【4】副免を希望する者は、4 年間を見据えた計画を立てる。【5】必要に応じて教育関係ボランティア等に参加する。
	後期	【1】中学家庭科の学習内容を自発的に学習する。また、小学校と高等学校の家庭科の内容や、学校種間の連携について理解しておく。【2】学習指導案を書き、授業の構成や教材を考え、実施できるようになる。【3】2 年次終了～3 年次初めの内諾に備え、中学校での教育実習に対して意志を固める。【4】教員採用試験について調べ、準備を始める。
3 年次	前期	【1】専門科目および実技実習など、選択科目や必修科目の確実な修得を目指す。【2】4 年次開講科目以外の免許に必要な科目は、3 年次終了時までにはすべて単位が修得できているように計画的にすすめる。【3】後期に実施される介護等体験に備え、特別支援教育や社会福祉について、教科書や関連の資料や情報について理解を深める。
	後期	【1】教職免許の取得に関する科目が必要単位数として充足しているか確認し、不足があれば後期中に修得する。【2】卒業研究の課題や知識を教職にも生かせるように意識して専門学習を進める。
4 年次	前期	【1】教育実習を通して、教員という職業と内容、中学生の現状、教職の社会的立場、自分の将来と教職について考える。【2】教員として教育実習に取り組むと同時に、実践力をつける。【3】卒業研究を通して専門性を高め、家庭科との関連についても考える。【4】教員採用情報取得を密にし、教員採用試験について対策を講じる。【5】栄養教諭も併せて取得希望の者は、小学校実習時に小学校家庭科のしくみと栄養教諭との関係についても意識して実習を深める。
	後期	【1】後期教育実習の者は前期【1】・【2】を実践する。【2】卒業研究に関連して前期【2】の継続。【3】教員採用試験の可否にかかわらず、家庭科で扱う全領域に対して苦手な分野がある場合はその補充学習を行う。4 月までに自信を持って教えられるよう自主的な学習の場を持つ。（自主学習、習い事、資料読み、訓練等）

＜生活科学部管理栄養学科＞（認定課程：高一種免（家庭））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	【1】教育の基礎的理解に関する科目を通して、教員という仕事について生徒の立場ではなく教師の立場から理解する姿勢をつかむ。【2】家庭科の基礎となる、生活科学および家政学の概念、生活を科学することの概念や理念を理解する。【3】教員免許状取得に必要な科目の、1 年次配当の科目を確実に履修・修得する。【4】管理栄養士に関する専門科目が多いと思われるが、食生活だけでなく、他領域に関する科目も不得意分野を作らないよう、合格ラインクリアを目指すのではなく、領域の理解のために全内容の理解と修得を目指す。
	後期	【1】ほぼ前期に同じ。前期の【1】～【4】を継続のこと。【2】教育の基礎的理解に関する科目等は上級学年になると同時間に他の教職科目や専門必修科目が入っていることが多いので、1 年次に確実に修得する。【3】次年度より副免教科履修を考えている者は、1 年後期で受講の意志を固める。
2 年次	前期	【1】家庭科という教科についての理解を深め、さらに各指導法の授業にて、家庭科の学習指導案を作成できるようになる。【2】2 年次配当の科目を確実に修得する。【3】1 年次で学習した教職関連知識および専門知識を踏まえ、家庭科の教員として、家庭科で教える内容とは、と意識して考えられるようになる。【4】副免を希望する者は、4 年間を見据えた計画を立てる。【5】年間を通じ、専門科目および被服実習など、選択科目や必修科目の確実な修得を目指す。【6】必要に応じて教育関係ボランティア等に参加する。
	後期	【1】高等学校家庭科の学習内容を自発的に学習する。合わせて小学校・中学校での家庭科の内容や高等学校との連携について理解する。【2】学習指導案を書き、授業の構成や教材を考え実施できるようになる。【3】2 年次終了～3 年次初めの内諾にそなえ、高等学校への教育実習に行く意志と自覚を固める。【4】教員採用試験について調べ、準備を始める。
3 年次	前期	【1】専門科目および実技実習など、選択科目や必修科目の確実な修得を目指す。【2】4 年次開講科目以外の免許に必要な科目は、3 年次終了時までにはすべて単位が修得できているように計画的にすすめる。【3】多様化する学校現場や社会に対応するため現代的な課題についても教科書や関連の資料、情報について理解を深める。
	後期	【1】教職免許の取得に関する科目が必要単位数として充足しているか確認し、不足があれば後期中に修得する。【2】卒業研究の課題や知識を教職にも生かせるように意識して専門学習を進める。
4 年次	前期	【1】教育実習を通して、教員という職業と内容、高校生の現状、教職の社会的立場、自分の将来と教職について考える。【2】教員として教育実習に取り組むと同時に、実践力をつける。【3】卒業研究を通して専門性を高め、家庭科との関連についても考える。【4】教員採用情報取得を密にし、教員採用試験について対策を講じる。【5】栄養教諭も併せて取得希望の者は、小学校実習時に小学校家庭科のしくみと栄養教諭との関係についても意識して実習を深める。
	後期	【1】後期教育実習の者は前期【1】・【2】を実践する。【2】卒業研究に関連して前期【2】の継続。【3】教員採用試験の可否にかかわらず、家庭科で扱う全領域に対して苦手な分野がある場合はその補充学習を行う。4 月までに自信を持って教えられるよう自主的な学習の場を持つ。（自主学習、習い事、資料読み、訓練等）

＜生活科学部管理栄養学科＞（認定課程：栄教一種免）

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	栄養教諭は、栄養士の免許を有することが基礎資格となるため、栄養士必須科目をすべて履修する。栄養教諭は、児童生徒の望ましい食習慣の形成のため、栄養に関する専門性と教育に関する資質を併せ有する教育職員として、栄養及び教育の専門性を十分発揮することが期待される。食に関する指導と学校給食の管理を職務とするため、教師となるための基本的資質・力量を身につけ、計画的に履修を進める。前期は専門教育科目の「基礎分野の科目」と「栄養士必修科目」および教育の基礎的理解に関する科目のうち「教育本質論」、「発達と学習」を確実に修得し、発達の概念や発達のメカニズム、子どもを取り巻く人間関係の重要性について理解し、幅広い教養と考える力を身につける。
	後期	後期の専門教育科目で「栄養士必修科目」および教育の基礎的理解に関する科目の「教育制度と社会」、「特別支援教育」、「教職論」を確実に修得し、日本の教育制度の原理と社会との関わりについての知識を深める。前期で学んだ理論を実習・実験を通して確認・修得し、実践力を養う。
2 年次	前期	前期の専門教育科目で「栄養士必須科目」および教育の基礎的理解に関する科目等の「カリキュラム論」、「道徳の理論及び指導法」、「総合的な学習の時間の指導法」、「特別活動の指導法」、「教育の方法と技術」を確実に修得する。栄養士としての専門知識や、教師になるための教育の意義、概要等を学び、適切な指導ができるよう知識と技術を身につける。
	後期	後期の専門教育科目で「栄養士必須科目」の「専門基礎分野と専門分野の科目」を履修することで理論と基礎を修得し、同時に実験・実習を通して確認し知識を深め、技術力と実践力を養う。
3 年次	前期	前期の専門教育科目で「栄養士必須科目」の「専門基礎分野と専門分野の科目」および栄養に係る教育に関する科目の「学校栄養教育論」を確実に修得し、栄養教諭としての使命や食に関する指導についての理論と方法を修得する。
	後期	後期の専門教育科目の「栄養士必須科目」と栄養に係る教育に関する科目の「学校栄養指導法」、教育の基礎的理解に関する科目等の「教育相談」、「事前及び事後指導（栄養教諭）」を履修する。4 年次の「栄養教育実習」の準備として、前期までに学習した栄養士必須科目内容も踏まえ、食に関する指導法や栄養教育実習の意義や目的、心構え、執務記録、授業計画、実習評価方法などについて学び、各自模擬授業の発表を通して指導法と実践力を養う。
4 年次	前期	4 年次は、栄養教育実習、教員採用試験、卒業研究に積極的に取り組む。前期配当の専門科目および卒業研究を確実に遂行する。栄養教育実習では実習校での観察・参加・実習等を体験し、自らが授業を実施することにより、教育者としての態度、技術を体得し、実地修練を通して指導力や実践力、コミュニケーション力を磨く。
	後期	卒業研究を完成させるとともに、残りの専門科目と教職実践演習を修得する。栄養教育実習後には報告会に参加し、学生間の情報交換、実習の反省、問題点の整理を行い、今後への課題を明確化する。履修の総仕上げとして栄養教育実習での授業体験の共有化を図り、栄養教諭の教師像について考え、教職実践演習に取り組む。

＜生活科学部生活環境デザイン学科＞（認定課程：中一種免（家庭））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	【1】教育の基礎的理解に関する科目を通して、教員という仕事について生徒の立場ではなく教師の立場から理解する姿勢をつかむ。【2】家庭科の基礎となる、生活科学および家政学の概念、生活を科学することの概念や理念を理解する。【3】教員免許状取得に必要な科目の、1 年次配当の科目を確実に履修・修得する。【4】主にアパレル・インテリア・建築の分野を決められると思われるが、各分野の基礎科目はそれぞれ家庭科の衣生活・住生活・環境等の領域に関わるのでできるだけ偏らずに不得意分野を作らないよう習得する。【5】教職に就いた後のことを考え、全分野の理解と修得を目指す。
	後期	【1】ほぼ前期に同じ。前期の【1】～【4】を継続のこと。【2】教育の基礎的理解に関する科目等は上級学年になると同時に他の教職科目や専門必修科目が入っていることが多いので、一年次に確実に修得する。【3】次年度より副免教科履修を考えている者は、1 年後期で受講の意志を固める。
2 年次	前期	【1】家庭科という教科についての理解を深め、さらに各指導法の授業にて、家庭科や道徳、特別活動などの学習指導案を作成できるようになる。【2】2 年次配当の科目を確実に修得する。【3】1 年次で学習した教職関連知識および専門知識を踏まえ、家庭科の教員として、家庭科で教える内容とは、と意識して考えられるようになる。【4】副免を希望する者は、4 年間を見据えた計画を立てる。【5】必要に応じて教育関係ボランティア等に参加する。
	後期	【1】中学家庭科の学習内容を自発的に学習する。合わせて小学校・高等学校での家庭科の内容や連携について理解する【2】学習指導案を書き、授業の構成や教材を考え実施できるようになる。【3】2 年次終了～3 年次初めの内諾にそなえ、中学校に教育実習に行く意志と自覚を固める。【4】教員採用試験について調べ、準備を始める。
3 年次	前期	【1】専門科目および実技実習など、選択科目や必修科目の確実な修得を目指す。【2】4 年次開講科目以外の免許に必要な科目は、3 年次終了時までにはすべて単位が修得できているように計画的にすすめる。【3】後期に実施される介護等体験に備え、特別支援教育や社会福祉について、教科書や関連の資料や情報にふれて理解を深める。
	後期	【1】教職免許の取得に関する科目がすべて必要単位数として充足しているか確認し、不足があれば後期中に修得する。【2】卒業研究の課題や知識を教職にも生かせるように意識して専門学習を進める。
4 年次	前期	【1】教育実習を通して、教員という職業と内容、中学生の現状、教職の社会的立場、自分の将来と教職について考える。【2】教員として教育実習に取り組むと同時に、実践力をつける。【3】卒業研究を通して専門性を高め、家庭科との関連についても考える。【4】教員採用情報取得を密にし、教員採用試験について対策を講じる。
	後期	【1】後期教育実習の者は前期【1】・【2】を実践する。【2】卒業研究に関連して前期【2】の継続。【3】教員採用試験の可否にかかわらず、家庭科で扱う全領域に対して苦手な分野がある場合はその補充学習を行う。4 月までに自信を持って教えられるよう自主的な学習の場を持つ。（自主学習、習い事、資料読み、訓練等）

＜生活科学部生活環境デザイン学科＞（認定課程：高一種免（家庭））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	【1】教育の基礎的理解に関する科目を通して、教員という仕事について生徒の立場ではなく教師の立場から理解する姿勢をつかむ。【2】家庭科の基礎となる、生活科学および家政学の概念、生活を科学することの概念や理念を理解する。【3】教員免許状取得に必要な科目の、1 年次配当の科目を確実に履修・修得する。【4】主にアパレル・インテリア・建築の分野を決められると思われるが、各分野の基礎科目はそれぞれ家庭科の衣生活・住生活・環境等の領域に関わるのでできるだけ偏らずに不得意分野を作らないよう習得する。【5】教職に就いた後のことを考え、全分野の理解と修得を目指す。
	後期	【1】ほぼ前期に同じ。前期の【1】～【4】を継続のこと。【2】教育の基礎的理解に関する科目等は上級学年になると同時間に他の教職科目や専門必修科目が入っていることが多いので、一年次に確実に修得する。【3】次年度より副免教科履修を考えている者は、1 年後期で受講の意志を固める。
2 年次	前期	【1】家庭科という教科についての理解を深め、さらに各指導法の授業にて、家庭科の学習指導案を作成できるようになる。【2】2 年次配当の科目を確実に修得する。【3】1 年次で学習した教職関連知識および専門知識を踏まえ、家庭科の教員として、家庭科で教える内容とは、と意識して考えられるようになる。【4】副免を希望する者は、4 年間を見据えた計画を立てる。【5】年間を通じ専門科目の選択科目や必修科目の確実な修得を目指す。【6】必要に応じて教育関係ボランティア等に参加する。
	後期	【1】高等学校家庭科の学習内容を自発的に学習する。合わせて小学校・中学校での家庭科の内容や高等学校との連携について理解する。【2】学習指導案を書き、授業の構成や教材を考え実施できるようになる。【3】2 年次終了～3 年次初めの内諾にそなえ、高等学校への教育実習に行く意志と自覚を固める。【4】教員採用試験について調べ、準備を始める。
3 年次	前期	【1】専門科目および実技実習など、選択科目や必修科目の確実な修得を目指す。【2】4 年次開講科目以外の免許に必要な科目は、3 年次終了時までにはすべて単位が修得できているように計画的にすすめる。【3】多様化する学校現場や社会に対応するため現代的な課題についても教科書や関連の資料、情報にふれて理解を深める。
	後期	【1】教職免許の取得に関する科目がすべて必要単位数として充足しているか確認し、不足があれば後期中に修得する。【2】卒業研究の課題や知識を教職にも生かせるように意識して専門学習を進める。
4 年次	前期	【1】教育実習を通して、教員という職業と内容、高校生の現状、教職の社会的立場、自分の将来と教職について考える。【2】教員として教育実習に取り組むと同時に、実践力をつける。【3】卒業研究を通して専門性を高め、家庭科との関連についても考える。【4】教員採用情報取得を密にし、教員採用試験について対策を講じる。
	後期	【1】後期教育実習の者は前期【1】・【2】を実践する。【2】卒業研究に関連して前期【2】の継続。【3】教員採用試験の可否にかかわらず、家庭科で扱う全領域に対して苦手な分野がある場合はその補充学習を行う。4 月までに自信を持って教えられるよう自主的な学習の場を持つ。（自主学習、習い事、資料読み、訓練等）

＜外国語学部英語英米学科＞（認定課程：中一種免（英語））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	外国人教員による英語の授業を通して、「英語 4 技能」の基礎を身につける。また、“教えのプロ”に先立つ“学びのプロ”として、自律的な英語学習習慣を確立する。英語の多様化についても学び、国際コミュニケーションの手段としての英語に対する柔軟な態度を養う。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念、及び教育の対象となる生徒の発達と学習上の特徴を理解する。
	後期	外国人教員による英語の授業を通して、「英語 4 技能」の運用能力を高める。また英語劇の練習や上演などを通して、自然で明瞭な発音と非言語コミュニケーションについての知識や技能を獲得する。さらに、前期に引き続いて教育の基礎理論を学ぶことにより、教職の意義、教員の役割、職務内容、教育制度などについて理解する。
2 年次	前期	主として外国人教員による英語の授業を通して、「英語 4 技能」の運用能力を一層向上させる。また英語コミュニケーション科目群や英語文化圏科目群の履修を通して、英語の仕組みや音声、言語・非言語コミュニケーションの仕組みなどを知り、英語圏の社会や文化についても理解を深める。さらに、学校における教育課程（カリキュラム）の構造について理解すると同時に、情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、効果の高い指導法を身につける。
	後期	主として外国人教員による英語の授業を通して、「英語 4 技能」の運用に習熟する。また英語コミュニケーション科目群や英語文化圏科目群の履修を通して、英語学習者の心理や異文化への適応などについて知り、英語圏の社会や文化についても一層理解を深める。英語科と道徳および特別活動の指導法については、教育実習等実際の教育現場での授業がひととおり実施できるようになる。
3 年次	前期	課外活動を含むさまざまな学習機会を利用し、英語を使って授業を行うのに支障のない英語コミュニケーション能力を身につける。また専門科目の履修や卒業論文準備科目であるゼミでの演習などを通して、英語や英語圏文化、異文化コミュニケーションなどに関する専門知識の基礎を身につける。さらに、英語科の指導法について、模擬授業やその分析と振り返りを繰り返すことによってより高度な知識・技能を身につけるとともに、生徒指導と進路指導の理論と方法についても理解する。また、必須科目の介護等体験を通して、さまざまな人の生き方を認識し、人と関わる中で重要な姿勢や視点を経験的に学ぶ。
	後期	課外活動を含むさまざまな学習機会を効果的に利用し、英語を使って授業を行うのに十分な英語コミュニケーション能力を身につける。また、専門科目の履修やゼミでの演習などを通して、英語や英語圏文化、異文化コミュニケーションなどに関する専門性を一層高める。さらに、カウンセリングの基礎知識、基本技術を学ぶことにより、教育相談の意義と方法についても理解する。これらの知識・技能を統合することによって、CAN-DO リストの作成や活用を含め、生徒一人ひとりの能力に配慮した授業ができるようになる。
4 年次	前期	卒業研究を通して、英語とその背景にある社会や文化、また異文化コミュニケーションなどに関する科学的理解の態度を身につける。また、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、英語によるコミュニケーションに関する科学的理解をさらに深めていく。そして、教育実習終了後の反省や、実践形式の演習等を通して、教育の現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを理解する。また、自身の指導力の実際を把握し、教職に対する考え方等について総括できるようになる。

＜外国語学部英語英米学科＞（認定課程：高一種免（英語））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	外国人教員による英語の授業を通して、「英語 4 技能」の基礎を身につける。また、“教えのプロ”に先立つ“学びのプロ”として、自律的な英語学習習慣を確立する。英語の多様化についても学び、国際コミュニケーションの手段としての英語に対する柔軟な態度を養う。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念、及び教育の対象となる生徒の発達と学習上の特徴を理解する。
	後期	外国人教員による英語の授業を通して、「英語 4 技能」の運用能力を高める。また英語劇の練習や上演などを通して、自然で明瞭な発音と非言語コミュニケーションについての知識や技能を獲得する。さらに、前期に引き続いて教育の基礎理論を学ぶことにより、教職の意義、教員の役割、職務内容、教育制度などについて理解する。
2 年次	前期	主として外国人教員による英語の授業を通して、「英語 4 技能」の運用能力を一層向上させる。また英語コミュニケーション科目群や英語文化圏科目群の履修を通して、英語の仕組みや音声、言語・非言語コミュニケーションの仕組みなどを知り、英語圏の社会や文化についても理解を深める。さらに、学校における教育課程（カリキュラム）の構造について理解すると同時に、情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、効果の高い指導法を身につける。
	後期	主として外国人教員による英語の授業を通して、「英語 4 技能」の運用に習熟する。また英語コミュニケーション科目群や英語文化圏科目群の履修を通して、英語学習者の心理や異文化への適応などについて深く理解し、英語圏の社会や文化についても幅広く学ぶ。英語科と特別活動の指導法については、教育実習等実際の教育現場での授業がひととおり実施できるようになる。
3 年次	前期	課外活動を含むさまざまな学習機会を利用し、英語を使って授業を行うのに支障のない英語コミュニケーション能力を身につける。また専門科目の履修や卒業論文準備科目であるゼミでの演習などを通して、英語や英語圏文化、異文化コミュニケーションなどに関する専門的な理解を得る。さらに、英語科の指導法について、模擬授業やその分析と振り返りを繰り返すことによってより高度な知識・技能を身につけるとともに、生徒指導と進路指導の理論と方法についても理解する。
	後期	課外活動を含むさまざまな学習機会を効果的に利用し、英語を使って授業を行うのに支障のない実践的な英語コミュニケーション能力を幅広く身につける。また、専門科目の履修やゼミでの演習などを通して、英語や英語圏文化、異文化コミュニケーションなどに関する専門性を一層高める。さらに、カウンセリングの基礎知識、基本技術を学ぶことにより、教育相談の意義と方法についても理解する。これらの知識・技能を統合することによって、CAN-DO リストの作成や活用を含め、生徒一人ひとりの能力に配慮した授業ができるようになる。
4 年次	前期	卒業研究を通して、英語とその背景にある社会や文化、また異文化コミュニケーションなどに関する科学的理解の態度を身につける。また、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、英語によるコミュニケーションに関する科学的理解をさらに深めていく。そして、教育実習終了後の反省や、実践形式の演習等を通して、教育の現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを理解する。また、自身の指導力の実態を把握し、教職に対する考え方等について総括できるようになる。

＜人間関係学部人間共生学科＞（認定課程：中一種免（社会））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	中学校社会の教員免許状取得のための教職課程において、何をどのように修得しようとするのか、普遍的な目標とともに各履修生独自の目標を設定し、それらを達成するための履修計画を立てることができる。
	後期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上基礎的な位置づけをもつであろう「必修」指定の科目および「選択必修」指定の科目を、重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて（選択）必修指定の科目のうちおよそ三分の一を（約 20 単位を）修得する。
2 年次	前期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて（選択）必修指定の科目のうちおよそ三分の二を（約 40 単位を）修得する。
	後期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修し終える。修得単位数の上では、「教育実習」と「教職実践演習」を除いて（選択）必修指定の科目のすべてを（60 単位を）修得する。
3 年次	前期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて教員免許状取得に必要な科目についての最低修得単位数を（66 単位を）修得する。
	後期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目をさらにいっそう重点的に履修する。平板な“学校知”に堕しがちな「社会科」の既存の体系と、知的探究の所産として獲得される社会科学的認識と、これら両者の間の懸隔が何故に生じることになるのかについての洞察の初歩を学び取ることができる。 教育実習に向けての事前準備の基礎固めができる。《遅くともこの時期までに最低修得単位数を満たす。》
4 年次	前期	「教育実習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かすことができる。 “教育現場”に孕まれている複雑性・複層性と魅力とを――生きた人間関係をめぐる可能性を無邪気に称揚することに終始するのではなく、その身に帯びることになりがちな深刻なる保守性を問題化することを通してようやく可視化されてくるところのそれを――捉えた上で、自らめざすべき教員像をかたちづくることができる。
	後期	「教職実践演習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。

＜人間関係学部人間共生学科＞（認定課程：高一種免（公民））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	高等学校公民の教員免許状取得のための教職課程において、何をどのように修得しようとするのか、普遍的な目標とともに各履修生独自の目標を設定し、それらを達成するための履修計画を立てることができる。
	後期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上基礎的な位置づけをもつであろう「必修」指定の科目および「選択必修」指定の科目を、重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて（選択）必修指定の科目のうちおよそ三分の一を（約 20 単位を）修得する。
2 年次	前期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて（選択）必修指定の科目のうちおよそ三分の二を（約 40 単位を）修得する。
	後期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修し終える。修得単位数の上では、「教育実習」と「教職実践演習」を除いて（選択）必修指定の科目のすべてを（44 単位を）修得する。
3 年次	前期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて教員免許状取得に必要な科目についての最低修得単位数を（68 単位を）修得する。
	後期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目をさらにいっそう重点的に履修する。平板な“学校知”に堕しがちな「公民科」の既存の体系と、知的探究の所産として獲得される社会科学的・社会哲学的認識と、これら両者の間の懸隔が何故に生じることになるのかについての洞察の初歩を学び取ることができる。 教育実習に向けての事前準備の基礎固めができる。《遅くともこの時期までに最低修得単位数を満たす。》
4 年次	前期	「教育実習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かすことができる。 “教育現場”に孕まれている複雑性・複層性と魅力とを――生きた人間関係をめぐる可能性を無邪気に称揚することに終始するのではなく、その身に帯びることになりがちな深刻なる保守性を問題化することを通してようやく可視化されてくるところのそれを――捉えた上で、自らめざすべき教員像をかたちづくることができる。
	後期	「教職実践演習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。

＜人間関係学部心理学科＞（認定課程：高一種免（公民））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	高等学校公民の教員免許状取得のための教職課程において、何をどのように修得しようとするのか、普遍的な目標とともに各履修生独自の目標を設定し、それらを達成するための履修計画を立てることができる。
	後期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上基礎的な位置づけをもつであろう「必修」指定の科目および「選択必修」指定の科目を、重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて（選択）必修指定の科目のうちおよそ三分の一を（約 20 単位を）修得する。
2 年次	前期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて（選択）必修指定の科目のうちおよそ三分の二を（約 40 単位を）修得する。
	後期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上基礎的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修し終える。修得単位数の上では、「教育実習」と「教職実践演習」を除いて（選択）必修指定の科目のすべてを（46 単位を）修得する。
3 年次	前期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目を重点的に履修する。修得単位数の上では、「その他の必修科目」も含めて教員免許状取得に必要な科目についての最低修得単位数を（68 単位を）修得する。
	後期	教員免許状取得に必要な科目について、内容上発展的な位置づけをもつであろう科目をさらにいっそう重点的に履修する。平板な“学校知”に堕しがちな「公民科」の既存の体系と、知的探究の所産として獲得される社会科学的・社会哲学的認識と、これら両者の間の懸隔が何故に生じることになるのかについての洞察の初歩を学び取ることができる。 教育実習に向けての事前準備の基礎固めができる。《遅くともこの時期までに最低修得単位数を満たす。》
4 年次	前期	「教育実習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かすことができる。 “教育現場”に孕まれている複雑性・複層性と魅力とを――生きた人間関係をめぐる可能性を無邪気に称揚することに終始するのではなく、その身に帯びることになりがちな深刻なる保守性を問題化することを通してようやく可視化されてくるところのそれを――捉えた上で、自らめざすべき教員像をかたちづくることができる。
	後期	「教職実践演習」を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かし働かせることができる。

＜情報社会学部情報デザイン学科＞（認定課程：高一種免（情報））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	情報が様々な資源と同等の価値を有し、デジタル化が社会の変化を加速し新たな価値を創造する超スマート社会において、情報技術の活用による、より良い社会の創造について考えるとともに、情報の各分野の基礎について理解する。また、教職に関する基礎的な知識や、発達と教育、学習のメカニズム、学習課程や動機づけ等、教育心理学の基礎知識を修得し、現代教育に関する基礎的素養について理解するとともに、教職に関する基礎的素養についても理解を深める。
	後期	現代社会の多様な課題の目的に応じて、必要な情報をデザインし、情報技術を活用できるように、デジタルメディア基礎、情報処理論、プログラミング等、情報科学の基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、情報セキュリティや倫理、デジタル・トランスフォーメーションに関する知見を得る。また、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項、教職の意義及び教員の役割・職務内容、特別の支援を必要とする生徒に対する理解を深めるとともに、教職に関する基礎的素養についても理解する。
2 年次	前期	情報通信の仕組み、アルゴリズムとデータ構造やプログラミング、データサイエンスなどについての基本事項を理解し、情報に関わる概念や理論の基礎を身に付ける。また、情報科教育の意義を理解し、高等学校の情報科教員としての必要な知識と技術を身に付ける。さらに、学校におけるカリキュラムのあり方や、総合的な探究の時間、特別活動での指導法についても理解する。
	後期	身近なインターネットをめぐる法律の概要や著作権などの知的財産法をはじめ、広く情報技術に関連する法について理解するとともに、情報社会における情報システムの概要をとらえ、そこで利用されているデータベースの具体的な仕組みについても修得する。また、教育実習に必要な情報科教育の基礎や情報科教員としての基礎的な力量を模擬授業と授業評価等により身に付けるとともに、教育の方法と技術及び教育の情報化における情報通信技術の活用についても理解する。
3 年次	前期	情報通信ネットワークを介した情報流通のためのコンテンツに関わる科目として、動画制作、グラフィックスなどのほか、データサイエンスの応用の授業を通して、量的データや質的データの分析、データの可視化による処理の結果をもとに、その概念を理解するとともに、情報社会におけるビジネスや職業倫理など、社会における情報の位置づけについて理解する。また、教育相談の理論及び方法として、生徒の成長の過程で起こりうる多様な課題を理解し、相手に配慮する力を身に付ける。さらに、教育実習に対する事前指導により、実践的指導力を身に付ける。
	後期	コンピュータや情報通信ネットワークの機能、様々な課題の目的に応じた適切なモデル化とシミュレーションの手法等について理解するとともに、行政などの IT 化や DX の推進が、社会的な課題を効率的に解決できる事例を踏まえ、多様な幸せを実現できる情報化についての知見を得る。また、生徒の発達段階に応じた生徒指導のあり方や主体的に進路を選択する能力・態度の育成について理解を深めるとともに、引き続き、教育実習に対する事前指導により、実践的指導力を身に付ける。
4 年次	前期	卒業研究の取り組みを通して、情報の科学的な理解に裏打ちされた十分な情報活用能力を身に付けるとともに、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用する力、あるいはコンテンツを創造する実践力を身に付ける。また、情報科教員としての必要な基本的な指導技能や資質及び情報科教員の役割とその責務を理解し、教育実習に臨む。実習期間中には、大学教員による実習先への巡回指導を通じて、教育実習での課題を後期の教職実践演習に活かすために整理しておく。
	後期	卒業研究を完成させる過程や、大学 4 年間で学んだ知識や理論、教育実習での実践経験から、情報に関する各分野の理解に基づき、教科指導力や生徒指導力など実践的な力を身に付ける。また、履修カルテによる教職課程での取組状況の総点検と、教育実習時における課題を整理し、教職実践演習を通して、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを理解するとともに、自身の指導力の実際、教職に対する考え方等について総括する。

＜情報社会学部現代社会学科＞（認定課程：中一種免（社会））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	中学校社会の教員免許状取得のための教職課程において、何をどのように修得しようとするのか、普遍的な目標とともに自分なりの目標を設定し、それらの目標を達成するための履修計画を立て、基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修する。現代社会の変化を踏まえ、日本や世界の歴史、地理・地誌、社会学、法律、経済に関する基本的な内容を理解するとともに、宗教と社会との関わり、国際社会における宗教の多様性を理解する。また、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる生徒の発達と学習上の特徴を理解する。
	後期	基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修する。日本や世界の歴史に関する応用的な内容及び自然環境の側面から地理に関する基礎的な内容を理解するとともに、政治、倫理に関する基礎的な内容も学ぶ。また、教職の意義、教員の役割、職務内容などについても認識し、教育に関する制度をはじめ、社会的、政治的事項や、特別の支援を必要とする生徒に対する理解を深める。
2 年次	前期	基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修する。1 年次に学修した社会、政治、宗教等に関する基礎的な知識を踏まえ、多文化共生などの理念や実践とともに社会思想の歴史的背景や情報社会の現状などを多面的に学び、現代社会の理解を深める。また、教育の現場で求められる社会科の指導法（地理歴史、公民分野を含む。）及び総合的な学習の時間や特別活動に関わる基礎的な内容、中学校における教育課程（カリキュラム）の構造について学修し、具体的な指導方法を身に付ける。
	後期	基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修し終える。言語政策や土地の管理のあり方、デジタル時代の行政と市民との関係などを学ぶことにより、都市の歴史や、地域社会の成り立ちについて理解を深める。また、社会科の指導法（地理歴史、公民分野を含む。）については、教育実習等、実際の教育現場での授業ができるように、実践的な知識や技術を高める。さらに、教育の方法と技術及び情報通信技術の活用や道徳教育の指導について理解し、実践的指導力を修得する。
3 年次	前期	発展的な位置づけをもつ科目を重点的に履修する。2 年次までの学修内容を踏まえ、現代社会の仕組みと成り立ち、システムや機能や構造に関する専門的な知識の深化をはかる。特に、持続可能な開発のための実践理論を学ぶとともに、フィールドワークを実践する際の技法を身に付けることで地理学の学びを体得する。また、教育相談の理論と方法を理解するとともに、介護等体験により、社会福祉に関する基礎的な知識や要支援者とのコミュニケーションに必要な態度を身に付ける。
	後期	発展的な位置づけをもつ科目をさらに重点的に履修する。前期に引き続き、現代社会の仕組みと成り立ち、システムや機能や構造に関する専門的な知識の深化をはかる。特に、個別地域や個別産業の研究を通して全体社会の理解につなげる思考を身に付ける。また、生徒指導や進路指導に必要な基礎知識及び基本技能を修得するとともに、前期に引き続き、介護等体験を実施し、社会福祉に関する基本的な知識や態度を身に付ける。さらに、次年度の教育実習に備え、心構えや事前の準備について理解する。
4 年次	前期	教育実習を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かすことができるようになる。卒業研究の取り組みを通して、社会課題について主体的に考え、調査し、課題の解決をめざす態度を身に付ける。また、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や、生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、社会に関する事象の科学的理解について集大成をはかる。また、教育実習終了後の反省やまとめ、事後指導により、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを再認識するとともに、教職実践演習を通して各自の教員としての指導上の能力とそこにみる課題を自覚し、教職に対する考え方や実践的な知識・技能について総括する。

＜情報社会学部現代社会学科＞（認定課程：高一種免（地理歴史））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	高等学校地理歴史の教員免許状取得のための教職課程において、何をどのように修得しようとするのか、普遍的な目標とともに自分なりの目標を設定し、それらの目標を達成するための履修計画を立て、内容上基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修する。現代社会の変化を踏まえ、日本や世界の歴史、地理・地誌に関する基本的な内容を理解する。また、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる生徒の発達と学習上の特徴を理解する。
	後期	基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修する。日本や世界の歴史に関する応用的な内容及び自然環境の側面から地理に関する基礎的な内容を理解する。また、教職の意義、教員の役割、職務内容などについても認識し、教育に関する制度をはじめ、社会的、政治的事項や、特別の支援を必要とする生徒に対する理解を深める。
2 年次	前期	基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修する。自らが暮らす地域（地元）を地理的歴史的視点をもって分析する思考を身に付け、地域メディアの役割や発達の歴史などを考察することにより、現代社会の理解を深める。また、教育の現場で求められる各種指導法のうち、地理、歴史分野及び総合的な探究の時間や特別活動に関わる基礎的な内容、高等学校における教育課程（カリキュラム）の構造について学修し、具体的な指導方法を身に付ける。
	後期	基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修し終える。土地の管理のあり方や地域資源の実践的なマネジメントの手法を学ぶことにより、都市の歴史や、地域社会の成り立ちについて理解を深め、国際的な視点から国や地域の歴史や観光などの理解も深める。また、地理、歴史分野の指導法については、教育実習等、実際の教育現場での授業ができるように、実践的な知識や技術を高める。さらに、教育の方法と技術及び情報通信技術の活用について理解し、実践的指導力を修得する。
3 年次	前期	発展的な位置づけをもつ科目を重点的に履修する。2 年次までの学修内容を踏まえ、現代社会の仕組みと成り立ち、システムや機能や構造に関する専門的な知識の深化をはかる。特に、地理学の視点から都市の成り立ちを学ぶとともに、フィールドワークを実践する際の技法や、収集した資料や地図を分析する力を身に付けることで地理学の学びを体得する。また、教育相談の理論と方法で、生徒の成長の過程で起こりうる多様な課題を理解し、相手に配慮する力を身に付ける。
	後期	発展的な位置づけをもつ科目をさらに重点的に履修する。前期に引き続き、現代社会の仕組みと成り立ち、システムや機能や構造に関する専門的な知識の深化をはかる。特に、個別地域の地理的歴史的な条件を探究することにより、全体社会の理解につなげる思考を身に付けるとともに、風景を生み出す人々の集合的な意識や、そのような意識に基づくコミュニティのあり方についての理解を深める。また、生徒指導や進路指導に必要な基礎知識及び基本技能を修得する。さらに、次年度の教育実習に備え、心構えや事前の準備について理解する。
4 年次	前期	教育実習を中心に据えて、それまでに学んだ事柄を実践的に活かすことができるようになる。卒業研究の取り組みを通して、社会課題について主体的に考え、調査し、課題の解決をめざす態度を身に付ける。また、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や、生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、社会に関する事象の科学的理解について集大成をはかる。また、教育実習終了後の反省やまとめ、事後指導により、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを再認識するとともに、教職実践演習を通して各自の教員としての指導上の能力とそこにみる課題を自覚し、教職に対する考え方や実践的な知識・技能について総括する。

＜現代マネジメント学部現代マネジメント学科＞（認定課程：中一種免（社会））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	近年の社会経済の変化を踏まえ、日本国憲法の理解をもとに、法律、政治及び経済に関する基礎的な知識を修得する。また、日本や世界の歴史に関する基本的な内容を理解するとともに、宗教についての学修を通して、倫理や公共心に関する認識を高める。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる生徒の発達と学習上の特徴を理解する。
	後期	日本国憲法の理解の上に立ち、法律、政治及び経済に関する基礎的な知識をさらに深める。また、日本や世界の歴史に関する応用的な内容ならびに地理に関する基本的・応用的な内容を理解する。さらに、教職の意義、教員の役割、職務内容などについても認識し、教育に関する制度をはじめ、社会的、経営的事項ならびに特別支援教育などについても理解を深める。
2 年次	前期	1 年次に学習した法律、政治、経済、歴史に関する基礎的な知識を踏まえ、行政や金融の各分野の基礎について修得し、我が国の政治、経済の特徴について認識するとともに、比較の視点から、欧米の現代政治などについても理解を深める。また、教育の現場で求められる各種指導法のうち、地理、歴史、公民分野及び総合的な学習の時間や特別活動に関わる基礎的な内容について学修し、具体的な指導方法を身につける。さらに、学校における教育課程（カリキュラム）の構造や道德教育の指導に必要な実践的能力についても修得する。
	後期	前期に学習した行政、金融の各分野、我が国の政治、経済の特徴、国際関係などに関して、引き続き、応用・発展的な内容を理解する。また、情報通信機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、より効果の高い指導法を身につける。さらに、地理、歴史、公民分野の指導法については、教育実習等、実際の教育現場での授業ができるように、実践的な知識や技術を高める。
3 年次	前期	2 年次までの学習内容を踏まえ、法律、政治、社会、経済、歴史に関する専門的な知識を深める。特に、国際政治、国際経済に関する理解を深めるとともに、企業・経済・取引などに関する法などをはじめ、地方自治、都市経済、公共経済に関する基礎理論など、多様な個別分野における知識を修得する。また、介護等体験により、社会福祉に関する基礎的な知識や要支援者とのコミュニケーションに必要な態度を身につける。
	後期	前期に引き続き、法律、政治、社会、経済、歴史に関する専門的な知識の深化をはかる。特に、国際政治、国際経済をはじめ、企業・経済・取引などに関する法、地方自治、都市経済、公共経済に関する応用・発展的な理論など、多様な個別分野における知識を定着させる。また、生徒指導や教育相談に必要な基礎知識および基本技能を修得するとともに、前期に引き続き、介護等体験を実施し、社会福祉に関する基本的な知識や態度を身につける。さらに、次年度の教育実習に備え、心構えや事前の準備について理解する。
4 年次	前期	法律、政治、経済、社会、歴史などの分野のなかから、各自の興味関心に応じたテーマを設定して卒業研究を行い、社会的事象について、主体的に考え、調査し、課題の解決をめざす態度を身につける。また、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や、生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、社会に関する事象の科学的理解について集大成をはかる。また、教育実習終了後の反省やまとめ、事後指導により、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを再認識するとともに、教職実践演習を通して各自の教員としての指導上の能力とそこにみる課題を自覚し、教職に対する考え方や実践的な知識・技能について総括する。

＜現代マネジメント学部現代マネジメント学科＞（認定課程：高一種免（公民））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	近年の社会経済の変化を踏まえ、日本国憲法の理解をもとに、法律、政治及び経済に関する基礎的な知識を修得する。また、宗教についての学修を通して、倫理や公共心に関する認識を高める。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる生徒の発達と学習上の特徴を理解する。
	後期	日本国憲法の理解の上に立ち、法律、政治及び経済に関する基礎的な知識をさらに深める。また、教職の意義、教員の役割、職務内容などについても認識し、教育に関する制度をはじめ、社会的、経営的事項ならびに特別支援教育などについても理解を深める。
2 年次	前期	1 年次に学習した法律、政治、経済に関する基礎的な知識を踏まえ、行政や金融の各分野の基礎について修得し、我が国の政治、経済の特徴について認識するとともに、比較の視点から、欧米の現代政治などについても理解を深める。また、教育の現場で求められる各種指導法のうち、公民分野及び総合的な学習の時間や特別活動に関わる基礎的な内容について学修し、具体的な指導方法を身につける。さらに、学校における教育課程（カリキュラム）の構造についても把握する。
	後期	前期に学習した行政、金融の各分野、我が国の政治、経済の特徴、国際関係などに関して、引き続き、応用・発展的な内容を理解する。また、情報通信機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、より効果の高い指導法を身につける。さらに、公民分野の指導法については、教育実習等、実際の教育現場での授業ができるように、実践的な知識や技術を高める。
3 年次	前期	2 年次までの学習内容を踏まえ、法律、政治、社会、経済に関する専門的な知識の深化をはかる。特に、国際政治、国際経済に関する理解を深めるとともに、企業・経済・取引などに関する法などをはじめ、地方自治、都市経済、公共経済に関する基礎理論など、多様な個別分野における知識を修得する。
	後期	前期に引き続き、法律、政治、社会、経済に関する専門的な知識の深化をはかる。特に、国際政治、国際経済をはじめ、企業・経済・取引などに関する法、地方自治、都市経済、公共経済に関する応用・発展的な理論など、多様な個別分野における知識を定着させる。また、生徒指導や教育相談に必要な基礎知識および基本技能を修得する。さらに、次年度の教育実習に備え、心構えや事前の準備について理解する。
4 年次	前期	法律、政治、経済、社会などの分野のなかから、各自の興味関心に応じたテーマを設定して卒業研究を行い、社会的事象について、主体的に考え、調査し、課題の解決をめざす態度を身につける。また、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や、生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、社会に関する事象の科学的理解について集大成をはかる。また、教育実習終了後の反省やまとめ、事後指導により、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを再認識するとともに、教職実践演習を通して各自の教員としての指導上の能力とそこにみる課題を自覚し、教職に対する考え方や実践的な知識・技能について総括する。

＜現代マネジメント学部現代マネジメント学科＞（認定課程：高一種免（商業））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	近年の社会経済や市場の変化を踏まえ、経営学及び会計学の基礎科目の履修を通して、企業組織や企業会計などに関する基本的な考え方を理解する。また、簿記の知識を身につけさせ、日商簿記3級の取得を目指すなど、商業の指導に必要な知識や技能の基盤をつくる。さらに、教育の基礎理論を学ぶことにより、教育の本質と理念及び教育の対象となる生徒の発達と学習上の特徴を把握する。
	後期	経営学及び会計学の基礎科目の履修を通して、企業組織や企業会計などに関する基本的な考え方を理解する。また、簿記の知識を身につけ、日商簿記3級・2級の取得を目指すなど、企業経営や簿記会計の基盤となる能力を修得する。さらに、教職の意義、教員の役割、職務内容などについても認識し、教育に関する制度をはじめ、社会的、経営的事項ならびに特別支援教育などについても理解を深める。
2 年次	前期	1 年次に学修した経営、会計、簿記に関する基礎的な知識を踏まえ、経営組織や経営戦略ならびにマーケティングやコーポレートファイナンス、財務会計や管理会計などに関する基礎的な知識を修得する。特に、経営組織の歴史や体系、財務会計の基礎理論を理解し、ビジネスマインドとアカウンティングマインドを身に付ける。また、教育の現場で求められる各種指導法のうち、商業及び総合的な学習の時間や特別活動に関わる基礎的な内容について学修し、具体的な指導方法を修得する。さらに学校における教育課程（カリキュラム）の構造についても把握する。
	後期	前期に学習した経営組織や経営戦略ならびにマーケティングやコーポレートファイナンス、財務会計や管理会計などに関して、引き続き、応用・発展的な内容を理解する。特に、これからの経営組織における諸課題について確認し、会計の実践的なスキルを修得する。また、情報通信機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、より効果の高い指導法を身につける。さらに、商業科の指導法に関する発展的な内容や職業指導の学修を通して、教育実習等、実際の教育現場での授業ができるように、実践的な知識や技術を高める。
3 年次	前期	2 年次までの学習内容を踏まえ、経営や会計などに関する専門的な知識の深化をはかる。特に、国際経営などに関する理解を深めるとともに、NPO、消費者問題など、多様な個別分野における知識を修得する。また、マーケティング・リサーチの手法を学び、商業に関する実践的な態度を身につける。
	後期	前期に引き続き、経営や会計などに関する専門的な知識の深化をはかる。特に、国際経営などに関する知識をさらに深化させるとともに、中小企業や商品開発、アントレプレナーシップなど、多様な個別分野における発展的な知識を定着させる。また、生徒指導や教育相談に必要な基礎知識および基本技能を修得する。さらに、次年度の教育実習に備え、心構えや事前の準備について理解する。
4 年次	前期	経営、会計などの分野のなかから、各自の興味関心に応じたテーマを設定して卒業研究を行い、商業的事象について、主体的に考え、調査し、課題の解決をめざす態度を身につける。また、教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導法や、生徒とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようになる。
	後期	卒業研究を完成させる過程を通して、商業に関する事象の科学的理解について集大成をはかる。また、教育実習終了後の反省やまとめ、事後指導により、学校現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを再認識するとともに、各自の教員としての指導上の能力とそこにみる課題を自覚し、教職に対する考え方や実践的な知識・技術について総括する。

＜教育学部子ども発達学科＞（認定課程：幼一種免）

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教師となるために 4 年間の履修計画や目標を立て、必要な知識・技能・経験・心構え等の基礎を身につける。教職カリキュラムの柱となる教育思想、教育法規・制度、教育社会学などの教育学や教育心理学、発達心理学や幼児教育論領域の基礎を修得するとともに、附属保育園・附属こども園・附属幼稚園・附属小学校・併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。日本国憲法をはじめ教職に求められる幅広い教養を身につけ、コンピュータや情報のリテラシー、ピアノの技能の基礎を修得するとともに、幼児教育の内容の一部の領域についても修得する。
	後期	教職に求められる幅広い教養を身につけ、特別支援教育の基礎を修得する。教職の職務内容や教師に求められる資質や人間性について理解を深める。コンピュータや情報のリテラシー、ピアノの技能の基礎を修得する。幼児理解の理論と方法において幼児に対する総合的な理解を深めると同時に、幼児教育の内容の一部の領域について修得する。幼児教育の内容を総合的に理解する。附属幼稚園・附属こども園でプレ実習体験をもつ。
2 年次	前期	幼稚園教育要領や教育課程の編成や評価について原理と方法を理解する。教育方法・技術の基礎を身につけ、幼児教育の内容の一部の領域及びその指導法を修得する。また臨床心理学やメディア・リテラシーの基礎、外国語コミュニケーションの基礎を修得し、幼稚園教諭に必要な資質・能力を高める。
	後期	教育の方法と技術について基礎的な知識・技能を修得する。幼稚園の各領域及びその指導法についてさらに深い専門的知識・技能の修得、また臨床心理学やメディア・リテラシーの基礎、外国語コミュニケーションの基礎の修得を通して、幼稚園教諭に必要な資質・能力を高める。
3 年次	前期	幼児心理学の専門的知識を身につけるとともに、障害児への幼児教育の基礎的知識・技能を修得する。幼児教育についての現代的課題やそれへの対応に関する専門的・実践的知識を修得する。ケースメソッド A を通して、実際の幼児教育の方法を実践的に学ぶ。3 年次前期に予定している教育実習の事前指導や模擬授業演習により、実習への準備を進める。教育実習により、幼児教育の計画・実践・評価を経験し、それまで修得した知識を実践的に再構築する。
	後期	幼稚園教諭を含めた保育職について、また、子どもの発達支援の方法について理解を深める。教育相談の知識や技能を修得する。幼児教育についての現代的課題やそれへの対応に関する専門的・実践的知識を修得する。ケースメソッド B や学校体験活動 I を通して、現場に即した教育課題を認識し、実践的対応力の深化を図る。
4 年次	前期	幼児教育についての現代的課題やそれへの対応に関する専門的・実践的な知識を修得し、又は学校体験活動 II を通して、教師としての自覚を培う。また、これまで学んできたことを卒業研究において、また教員採用試験に向けて統合化し深化させる。
	後期	卒業研究に取り組みながら、4 年間の教員養成の振り返りと経験・知識の集大成としての教職実践演習に取り組み、将来の教師としての自己認識と自己形成力を深める。

＜教育学部子ども発達学科＞（認定課程：小一種免）

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教職への理解を深め、4 年間の学修計画を立てるとともに、教育学・教育心理学の基礎を修得する。附属学校園等での観察実習を通して教育現場への理解を深めるほか、外国語コミュニケーション、ピアノ、コンピュタリテラシー及び小学校教科に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
	後期	教師となるための基礎となる幅広い教養を身に付けるとともに、日本国憲法、教育法規・教育制度、教育社会学、特別支援教育などに関する基礎的な知識を修得する。また、教師の役割や求められる資質・能力、人間性についての理解を深める。さらに、外国語コミュニケーション、ピアノ、コンピュタリテラシーなどの基礎的技能を習得するとともに、体育や国語をはじめとする小学校教科の基礎を学ぶ。「学校体験活動」では、学校や放課後教室でのボランティア活動を通して、子ども理解を深めるとともに、教職への理解を一層深める。
2 年次	前期	小学校学習指導要領及び教育課程編成の基礎を理解し、算数・理科・社会・外国語などの教科内容並びに音楽・図画工作・体育等の実技教科の指導法を修得する。あわせて、幅広い教養と教育に関する専門性を高め、小学校教諭として求められる資質・能力の向上を図る。
	後期	小学校家庭科及び生活科の教科内容を学ぶとともに、授業づくりの基礎となる教育方法・技術を修得する。また、国語・算数・理科・社会・外国語等の教科指導法及び総合的な学習の時間の指導法について学び、小学校教諭として必要な専門性を高める。あわせて、幅広い教養を身に付け、教員としての資質・能力の向上を図る。
3 年次	前期	小学校生活科・家庭科の指導法、外国語活動、特別の教科 道徳、特別活動の指導法、生徒指導及び教育相談などについて学び、小学校教育に必要な専門性を高める。また、模擬授業等を通して実践的な授業力を養うとともに、教育実習事前指導により、3 年次後期又は 4 年次前期に実施される教育実習に向けた準備を進める。
	後期	介護等体験や教育実習を通して、学校や社会福祉施設における教育・支援活動を実際に体験するとともに、授業実践の経験を積み、教職に関する理解と実践的な知識・技能を深めていく。
4 年次	前期	教育実習、卒業研究、教員採用試験など、それまでの学びの総仕上げに取り組み、小学校教諭として必要な知識・技能・態度を総合的に高めていく。
	後期	卒業研究の完成及び教職実践演習への取組を通して、4 年間の学びを振り返り、これまでに培った知識・技能・経験の集大成を図る。

＜教育学部子ども発達学科＞（認定課程：中一種免（国語））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教師となるために 4 年間の履修計画や目標を立て、必要な知識・技能・経験・心構え等の基礎を身に付ける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学、教育社会学領域の基礎を修得するとともに、附属保育園・附属こども園・附属幼稚園・附属小学校・併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。幅広い教養を身に付けるとともに、中学校の国語教育の基礎となる国語学・国文学の基本事項を修得する。小学校の国語教育に関する知識・技術とも連動しながら、自律的な国語関連分野の学修習慣を確立する。
	後期	教師となるための基礎となる幅広い教養を身に付けるとともに、教育の理念や歴史・思想をとらえる。また、特別の支援を必要とする生徒に対する理解を深め、合理的配慮を含むインクルーシブ教育の視点を踏まえながら、教師という仕事や教師に必要な資質、人間性についての理解を深める。前期に続いて国語学・国文学の授業を通じて、国語教育の基礎となる国語関連分野の基本事項を修得し、2 年次以降の各専門領域に対する関心を深める。
2 年次	前期	国語教育の基礎となる国語関連分野に関する基本的知識を修得するとともに、言語や表現の背景となる日本文化等の理解も含めて、国語という教科に関する発展的な知識を身に付ける。また、国語の指導法において実践的な知識や技術を高め、教育の方法と技術及び情報通信技術の活用法について学ぶことにより、デジタル学習基盤を活用した国語科授業の基礎を理解する。さらに、カリキュラム・マネジメントの視点から、中学校における教育課程の構造について理解する。
	後期	前期に引き続き、日本語文法や古典文学などの国語教育の基礎となる国語関連分野に関する基本的知識を修得するとともに、国語という教科に関する発展的な知識を身に付け、書写・書道を通して国語表現の深さや幅広さを体験的に学ぶ。また、国語の指導法において教材研究の方法や総合的な学習の時間の指導法について学ぶことにより、探究的な学びを支える国語科の役割についての理解を深める。
3 年次	前期	日本語の歴史の学修や評論文の読解などを通して、国語関連分野に関する専門的な知識を身に付け、多様なテキストに対応する読解力や批判的思考を育む。また、国語の指導法での模擬授業の経験によってより高度な知識・技能を身に付けるとともに、道徳の理論及び指導法やカウンセリングの基礎知識、基本技術を学ぶことにより、教育相談の意義と方法についても理解する。さらに、介護等体験を通して、さまざまな人の生き方を認識し、社会福祉に関する基礎的な知識や人と関わる中で重要な姿勢や視点を経験的に学ぶ。
	後期	日本語の歴史の学修や近現代文学の読解などを通して、国語関連分野に関する専門的知識を一層高める。国語の指導法では古典教材を使った模擬授業の経験や事前指導などを通じて、教育実習に対する意識づけを自ら行えるようにする。また、特別活動に関わる内容や生徒指導、進路指導に必要な基礎知識を修得することで、教科の枠にとらわれない生徒への指導のあり方について理解する。
4 年次	前期	卒業研究を通して、国語関連分野とその背景にある日本文化に関する見方・考え方を広げ、深める態度を身に付ける。また、教育実習の事前指導及び教育実習の経験を通して、効果的な指導法や生徒とのコミュニケーションのあり方等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようにする。
	後期	4 年間の学びを振り返り、卒業研究を完成させる過程を通して、国語関連分野に関する科学的理解の集大成を目指す。また、教育実習終了後の反省や、教職実践演習などを通して、学校現場で教師として求められる行動を理解するとともに、自身の指導力の実態を把握し、教職に対する考え方や実践的な知識・技能について総括する。

＜教育学部子ども発達学科＞（認定課程：高一種免（国語））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教師となるために4年間の履修計画や目標を立て、必要な知識・技能・経験・心構え等の基礎を身に付ける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学、教育社会学領域の基礎を修得するとともに、附属保育園・附属こども園・附属幼稚園・附属小学校・併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。幅広い教養を身に付けるとともに、高等学校の国語教育の基礎となる国語学・国文学の基本事項を修得する。中学校の国語教育に関する知識・技術とも連動しながら、自律的な国語関連分野の学修習慣を確立する。
	後期	教師となるための基礎となる幅広い教養を身に付けるとともに、教育の理念や歴史・思想をとらえる。また、特別の支援を必要とする生徒に対する理解を深め、合理的配慮を含むインクルーシブ教育の視点を踏まえながら、教師という仕事や教師に必要な資質、人間性についての理解を深める。前期に続いて国語学・国文学に関する知識を段階的に身に付けながら、言語文化や表現文化に対する幅広い知識を得るとともに、高等学校における国語教育の意義を理解する。
2 年次	前期	国語教育の基礎となる国語関連分野に関する基本的知識を修得するとともに、言語や表現の背景となる日本文化等の理解も含めて、国語という教科に関する発展的な知識を身に付ける。また、国語の指導法において実践的な知識や技術を高め、教育の方法と技術及び情報通信技術の活用法について学ぶことにより、デジタル学習基盤を活用した国語科授業の基礎を理解する。さらに、カリキュラム・マネジメントの視点から、高等学校における教育課程の構造について理解する。
	後期	前期に引き続き、日本語文法や古典文学などの国語教育の基礎となる国語関連分野に関する基本的知識を修得するとともに、国語という教科に関する発展的な知識を身に付け、書写・書道を通して国語表現の深さや幅広さを体験的に学ぶ。また、国語の指導法において教材研究の方法や総合的な学習の時間の指導法について学ぶことにより、探究を支える国語科の役割についての理解を深める。
3 年次	前期	評論文の読解や日本文学に関する演習形式の授業を通して、国語関連分野に関する専門的な知識や実践力を身に付ける。また、国語の指導法での現代文の模擬授業の経験によってより高度な知識・技能を身に付けるとともに、教材研究に基づいて発問を構想する力を身に付ける。さらに、カウンセリングの基礎知識、基本技術を学ぶことにより、教育相談の意義と方法についても理解する。
	後期	近現代文学の読解や、前期に引き続いて日本文学に関する演習形式の授業を通して、国語関連分野に関する専門的知識を一層高める。国語の指導法では古典教材を使った模擬授業を通してこれまでに培った知識や技能を授業づくりに生かす力を高めるとともに、事前指導などを通じて、教育実習に対する意識づけを自ら行えるようにする。また、特別活動に関わる内容や生徒指導、進路指導に必要な基礎知識を修得することで、教科の枠にとらわれない生徒への指導のあり方について理解する。
4 年次	前期	卒業研究を通して、国語関連分野とその背景にある日本文化に関する見方・考え方を広げ、深める態度を身に付ける。また、教育実習の事前指導及び教育実習の経験を通して、効果的な指導法や生徒とのコミュニケーションのあり方等の研究を行うことによって、教職の現場における実践的な指導ができるようにする。
	後期	4年間の学びを振り返り、卒業研究を完成させる過程を通して、国語関連分野に関する科学的理解の集大成を目指す。また、教育実習終了後の反省や、教職実践演習などを通して、学校現場で教師として求められる行動を理解するとともに、自身の指導力の実際を把握し、教職に対する考え方や実践的な知識・技能について総括する。

＜教育学部子ども発達学科＞（認定課程：中一種免（数学））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教師となるために 4 年間の履修計画や目標を立て、必要な知識や技能、経験、心構え等の基礎を身につける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学領域の基礎を修得するとともに、附属保育園・附属こども園・附属幼稚園・附属小学校・併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。外国語コミュニケーションやコンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、線形代数学や微分積分学といった数学の基礎能力を培う。
	後期	教師となるための基礎となる幅広い教養を身につけ、日本国憲法や教育法規、教育制度の基礎知識、教育社会学の基礎を修得するとともに、教師という仕事や教師に必要な資質や人間性についての理解を深める。外国語コミュニケーションやコンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、線形代数学や微分積分学、コンピュータ概論といった数学の基礎能力を培う。
2 年次	前期	線形代数学や微分積分学についての理解を深める。また中学校・高等学校数学科の目標や具体的なカリキュラムとその構成原理についての基礎を修得する。
	後期	線形代数学及び微分積分学の基礎の上に代数学、幾何学、解析学の基礎的内容を修得する。また中学校数学科における教育内容について理解し、その学習指導の方法や技術について修得する。
3 年次	前期	代数学、幾何学、解析学などの諸領域における標準的な内容を修得するとともに、現代数学の対象・方法についての理解を深める。また、中学校数学科と小学校算数科、高等学校数学科必修科目との系統性を意識しながら、授業実践力を身に付ける。
	後期	確率論・統計学や数学史などを幅広く学び、数学についての総合的理解を深める。中学校数学科における評価方法について、数学教育学の知見を踏まえながら修得する。また小学校での教育実習を通じて、教育現場における実践的経験を積む。
4 年次	前期	大学で学んだ数学を踏まえて、中学校数学科の教育内容と教材について再検討するとともに、教育実習や卒業研究を通じて数学の学習指導に関してさらに考察し、理論と実践の両側面からの理解をより一層深める。
	後期	卒業研究の仕上げ及び教職実践演習への取り組みを通じて、4 年間の学びを振り返り、経験の蓄積と知識の獲得について集大成をはかる。

＜教育学部子ども発達学科＞（認定課程：高一種免（数学））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教師となるために 4 年間の履修計画や目標を立て、必要な知識や技能、経験、心構え等の基礎を身につける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学領域の基礎を修得するとともに、附属保育園・附属こども園・附属幼稚園・附属小学校・併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。外国語コミュニケーションやコンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、線形代数学や微分積分学といった数学の基礎能力を培う。
	後期	教師となるための基礎となる幅広い教養を身につけ、日本国憲法や教育法規、教育制度の基礎知識、教育社会学の基礎を修得するとともに、教師という仕事や教師に必要な資質や人間性についての理解を深める。外国語コミュニケーションやコンピュータリテラシーについての基礎を培うとともに、線形代数学や微分積分学、コンピュータ概論といった数学の基礎能力を培う。
2 年次	前期	線形代数学や微分積分学についての理解を深める。また中学校・高等学校数学科の目標や具体的なカリキュラムとその構成原理についての基礎を修得する。
	後期	線形代数学及び微分積分学の基礎の上に代数学、幾何学、解析学の基礎的内容を修得する。また高等学校数学科における教育内容について理解し、その学習指導の方法や技術について修得する。
3 年次	前期	代数学、幾何学、解析学などの専門領域における標準的な内容を修得するとともに、現代数学の対象・方法についての理解を深める。また、高等学校数学科、中学校数学科、そして大学教養レベルの数学的内容との系統性を意識しながら、授業実践力を身に付ける。
	後期	確率論・統計学や数学史などを幅広く学び、数学についての総合的理解を深める。高等学校数学科における評価方法について、数学教育学の知見を踏まえながら修得する。また小学校での教育実習を通じて、教育現場における実践的経験を積む。
4 年次	前期	大学で学んだ数学を踏まえて、高等学校数学科の教育内容と教材について再検討するとともに、教育実習や卒業研究を通じて数学の学習指導に関してさらに考察し、理論と実践の両側面からの理解をより一層深める。
	後期	卒業研究の仕上げ及び教職実践演習への取り組みを通じて、4 年間の学びを振り返り、経験の蓄積と知識の獲得について集大成をはかる。

＜教育学部子ども発達学科＞（認定課程：中一種免（音楽））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教師となるために 4 年間の履修計画や目標を立て、必要な知識・技能・経験・心構え等の基礎を身につける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学領域の基礎を修得するとともに、附属保育園・附属こども園・附属幼稚園・附属小学校・併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。外国語コミュニケーションやコンピュタリテラシーについての基礎を培うとともに、声楽概論やピアノ概論、音楽理論などを学び、ピアノの基礎技能を身に付け、ソルフェージュといった音楽の基礎能力を培う。
	後期	教師となるための基礎となる幅広い教養を身につけ、日本国憲法や教育法規・教育制度の基礎知識、教育社会学の基礎を修得するとともに、教師という仕事や教師に必要な資質や人間性についての理解を深める。外国語コミュニケーションやコンピュタリテラシーについての基礎を培うとともに、器楽概論を学び、ピアノ技能や合唱機能を身に付ける。
2 年次	前期	ピアノやピアノ伴奏、声楽、器楽等の表現技術を修得していくとともに、音楽史や日本やアジアの音楽についての理論・知識を修得する。音楽の指導法において、中学校音楽科の教育内容研究、教材研究の方法を学ぶ。
	後期	ピアノや声楽・器楽等の演奏技術を高めるとともに、日本の音楽（声楽）や西洋の音楽史を修得し、演奏技術とともに音楽に対する理論や知識の幅を広げ音楽の指導法において、中学校音楽科の学習指導要領の変遷や改訂の要点、現学習指導要領の内容について理解し、カリキュラムの編成方法や授業構成について学ぶ。
3 年次	前期	ピアノや声楽、器楽等の演奏技術をさらに高めていくとともに、和声や編曲方法を含む作曲法の基礎を修得する音楽の指導法において、中学校音楽科の授業過程研究を実践的に行い、授業分析について追究する。
	後期	ピアノや声楽、器楽等の演奏技術を高めていくとともに、和声や編曲方法を含む作曲法を修得する。音楽の指導法において、研究論文や現場の実践、諸外国の音楽教育など様々な角度から中学校音楽科の授業について理解する。中学校の道徳の指導法や特別活動や生徒指導・進路指導、教育相談について修得するとともに、介護等体験や教育実習と言った実際の学校や社会福祉施設の現場体験や授業の実施体験を持ち、実践的な知識・体験を深めていく。
4 年次	前期	大学で学んだ音楽を踏まえて、教育実習や、卒業演奏・卒業研究にのぞみ、自身の音楽研究や中学校音楽科に関する研究を深める。
	後期	卒業演奏・卒業研究の仕上げ及び教職実践演習への取り組みを通じて、4 年間の学びを振り返り、経験・知識の集大成をはかるとともに、将来の教師としての自己認識と自己形成力を深める。

＜教育学部子ども発達学科＞（認定課程：高一種免（音楽））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教師となるために4年間の履修計画や目標を立て、必要な知識・技能・経験・心構え等の基礎を身につける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学領域の基礎を修得するとともに、附属保育園・附属こども園・附属幼稚園・附属小学校・併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。外国語コミュニケーションやコンピュタリテラシーについての基礎を培うとともに、声楽概論やピアノ概論、音楽理論などを学び、ピアノの基礎技能を身に付け、ソルフェージュといった音楽の基礎能力を培う。
	後期	教師となるための基礎となる幅広い教養を身につけ、日本国憲法や教育法規・教育制度の基礎知識、教育社会学の基礎を修得するとともに、教師という仕事や教師に必要な資質や人間性についての理解を深める。外国語コミュニケーションやコンピュタリテラシーについての基礎を培うとともに、器楽概論を学び、ピアノ技能や合唱機能を身に付ける。
2 年次	前期	ピアノやピアノ伴奏、声楽、器楽等の表現技術を修得していくとともに、音楽史や日本やアジアの音楽についての理論・知識を修得する。音楽の指導法において、高等学校音楽科の教育内容研究、教材研究の方法を学ぶ。
	後期	ピアノや声楽・器楽等の演奏技術を高めるとともに、日本の音楽（声楽）や西洋の音楽史を修得し、演奏技術とともに音楽に対する理論や知識の幅を広げ音楽の指導法において、高等学校音楽科の学習指導要領の変遷や改訂の要点、現学習指導要領の内容について理解し、カリキュラムの編成方法や授業構成について学ぶ。
3 年次	前期	ピアノや声楽、器楽等の演奏技術をさらに高めていくとともに、和声や編曲方法を含む作曲法の基礎を修得する。音楽の指導法において、高等学校音楽科の授業過程研究を実践的にを行い、授業分析について追究する。
	後期	ピアノや声楽、器楽等の演奏技術を高めていくとともに、和声や編曲方法を含む作曲法を修得する。音楽の指導法において、研究論文や現場の実践、諸外国の音楽教育など様々な角度から高等学校音楽科の授業について理解する。高等学校の道徳の指導法や特別活動や生徒指導・進路指導、教育相談について修得するとともに、介護等体験や教育実習と言った実際の学校や社会福祉施設の現場体験や授業の実施体験を持ち、実践的な知識・体験を深めていく。
4 年次	前期	大学で学んだ音楽を踏まえて、教育実習や、卒業演奏・卒業研究にのぞみ、自身の音楽研究や高等学校音楽科に関する研究を深める。
	後期	卒業演奏・卒業研究の仕上げ及び教職実践演習への取り組みを通じて、4年間の学びを振り返り、経験・知識の集大成をはかるとともに、将来の教師としての自己認識と自己形成力を深める。

＜教育学部子ども発達学科＞（認定課程：特支一種免）

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	特別支援教育の基礎の学修を開始する。教師となるために 4 年間の履修計画や目標を立て、必要な知識・技能・経験・心構え等の基礎を身につける。教職カリキュラムの柱となる教育学や教育心理学領域の基礎を修得するとともに、附属保育園・附属こども園・附属幼稚園・附属小学校・併設中学校高等学校での初歩的な観察実習を経験する。外国語コミュニケーションやピアノの基礎技能・コンピュータリテラシーについての基礎を培う。
	後期	特別支援教育の中心的な領域「知的障害者・肢体不自由者・病弱者」の教育に関する基礎的な学修を開始する。教師となるための基礎となる幅広い教養を身につけるため、日本国憲法・教育法規・教育制度・特別な配慮を要する幼児児童生徒理解の基礎知識を修得するとともに、教師という仕事や教師に必要な資質や人間性についての理解を深める。外国語コミュニケーションやピアノの基礎技能・コンピュータリテラシーについての基礎を培う。
2 年次	前期	特別支援教育の中心的な領域「知的障害者・肢体不自由者・病弱者」の教育に関する基礎的な学修を継続する。知的障害児・肢体不自由児の心理・生理・病理について理解を深める。教養科目の履修を通して広い教養を身につけるとともに、教職に関する発展的な科目を学修する。
	後期	特別支援教育の中心的な領域「知的障害者・肢体不自由者・病弱者」の教育に関する専門的な学修を展開する。病弱児の心理・生理・病理について理解を深め、また、知的障害児に対する最適な教育課程のあり方について理解する。引き続き、教養科目の履修を通して広い教養を身につけるとともに、教職に関する発展的な科目を学修し、特別支援学校教諭に必要な資質を高めていく。
3 年次	前期	特別支援教育の中心的な領域「知的障害者・肢体不自由者・病弱者」に関する最適な教育内容と方法について理解する。また、「知的障害者・肢体不自由者・病弱者」以外の領域、すなわち自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠如・多動性障害等の発達障害について理解を深める。教職に関する発展的な科目の学修とともに、4 年次前期に予定している教育実習のための事前指導により、教育実習のための準備を進める。
	後期	「知的障害者・肢体不自由者・病弱者」以外の領域、すなわち「視覚障害者」「聴覚障害者」、自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠如・多動性障害等の発達障害の教育についても理解を深める。また、教職に関する発展的な科目の学修とともに、幼稚園、小学校の教育実習や特別支援学校等におけるボランティア等を通して、教職を目指す学生としての実践力を高める。
4 年次	前期	これまでの学修成果を確認するとともに、特別支援学校における教育実習により、実践力を高める。これまで学んできたことの総仕上げとしての卒業研究や教員採用試験等に向けて進んでいく。
	後期	卒業研究の仕上げ及び教職実践演習への取り組みにおいて、4 年間の学びを振り返り、経験・知識の集大成をはかる。

＜看護学部看護学科＞（認定課程：養教一種免）

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	日本国憲法、外国語などを履修し、養護教諭としての基礎的教養を身につける。また看護学の専門科目としての看護学概論や解剖生理学の科目を通して養護教諭としての基礎的能力を身につける。
	後期	健康とスポーツなどの教養科目を履修し、医療人としての基礎的能力を高める。また微生物学、薬理学などの専門科目、基礎看護技術についての理論の学習や演習を通して、養護教諭の活動に必要な基礎的能力を身につける。
2 年次	前期	養護概論を通して養護教諭の活動の概要を理解するとともに、公衆衛生学、栄養治療論などの専門基礎科目を通じて、養護教諭の活動対象の理解を深める。小児看護学概論をはじめ、各領域の概論科目によって援助の対象や医療的配慮の専門的な視点を学ぶことで対人援助の専門的視点を養う。また発達と学習やカリキュラム論などの教職科目を通して、教育の対象となる児童生徒の特徴をとらえる視点と教育現場における教育課程について理解を深める。
	後期	地域保健の一環である学校保健を学ぶため、疫学、保健医療福祉行政論Ⅰなどの専門科目を通じ、養護教諭として必要な専門的視点を深める。また、養護教諭の活動を支える技術に関する科目として、健康相談活動の理論及び方法、特別支援教育などの科目により、面接技法や対人援助に関する理解と視野を深める。特に小児健康支援論や精神看護支援論などの科目を通じ、多様な対象に対処できる養護教諭の専門的能力を高める。教育本質論や教職論などの教職科目を通じ、教育の本質や教師としての役割や理念について自覚と理解を促す。
3 年次	前期	保健医療福祉行政論Ⅱや学校保健学などの科目を通して、養護教諭の活動を地域保健の視点から理解できる能力を身につける。また小児健康支援論演習、精神看護支援論演習などの専門演習科目を通じ、これまで学んできた専門的援助に関わる知識・技術を精錬し、養護教諭としての援助力を高める。また教育の方法と技術や教育相談などの教職科目において、学校現場で必要となる教育的配慮や工夫についての理解を深める。
	後期	小児看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習等の臨地実習を通して、看護の対象の理解と技術の深化に努める。さらにすでに修得したカウンセリングや健康相談の技術を応用し、連携・協働の視点を得るため、生徒指導などの教職科目を通じて、教育現場で求められる教師の対応について理解する。
4 年次	前期	事前及び事後指導を通じ、教育現場で実際に学ぶ養護実習に備え、必要な知識・技術を復習し、実習体験を通して養護教諭の専門性を実践的に学ぶ。また看護学の基礎となる各領域の臨床実習と医療看護者としての知識を統合する看護管理実習を通じて、養護教諭としての実務に関連する知識とスキルを磨く。
	後期	前期に引き続き、臨地実習を通して、知識と技術を修練し、看護師としての知識・技術・態度を統合する。同時に並行して、教職実践演習における学校現場を想定した実践形式の演習等を通して、教育現場において何が教師に求められているかを理解する。さらにこれまでの学びを総括し、自身の指導力の実際、教職に対する考え方等について多角的に自身の課題を整理検討し、主体的に学びを進める態度を獲得する。